

校庭にふった雨はどこへ？

予想を立てるときの評価基準

S

校庭にふった雨はどこへいくのかについて、予想を根きよと共に説明でき、何と関係付けたことでその予想が生まれたかを説明できている。

A

校庭にふった雨はどこへいくのかについて、予想を立てることができ、予想の根きよを説明できている。

B

校庭にふった雨はどこへいくのかについて、予想を立てることができているが、予想の根きよを説明することができていない。

C

校庭にふった雨はどこへいくのかについて、予想を立てることができていない。

具体的な記述の例

※予想が事実とはちがっていても、理由が示せていればこの段階では質が高いと考える

「予想」

雨は土にしみこむ。

「予想の根きよ」

海にあそびにいったときに、すなをたたくと水が出てきたから。また、服に水がしみこむと色がこくなるのと同じように、雨がふると校庭のすなの色もこくなったから。

「予想の立て方について
思ったこと」

校庭にふった雨はどこへいくのかについて、海にあそびに行ったときに見たすなのようすや、服がぬれたときの色の变化と、校庭の土やすなのようすを関係付けることで、予想の理由が説明できた。

「予想」

雨は土にしみこむ。

「予想の根きよ」

海にあそびにいったときに、すなをたたくと水が出てきたから。また、服に水がしみこむと色がこくなるのと同じように、雨がふると校庭のすなの色もこくなったから。

「予想の立て方について
思ったこと」

ヒントがあったから予想できた。

「予想」

雨は土にしみこむ。

「予想の根きよ」

水たまりはなくなるから。
※説明が不十分

「予想の立て方について
思ったこと」

むずかしかった。

「予想」

わからない（書けていない）

「予想の根きよ」

わからない（書けていない）

「予想の立て方について
思ったこと」

むずかしかった。